

阿弥陀堂と伝善鸞墓所

そこは親鸞聖人ののご子息、慈信房善鸞じしんぼうぜんらんの廟所と、古くから伝えられているという。

善鸞は、聖人の帰洛後、門弟たちの間で論争が起きたため、名代として関東へ趣いた。しかし、善鸞は守護・地頭などを利用して教えを広めようとしたり、聖人からこっそりと念仏以外の教えを聞いたなどと、かえって関東の人びとを混乱させ、教えに背くことをしてしまった。これによって聖人が八十四歳の時、義絶(勘当)したと伝えられる。そのためか、その後の善鸞の様子を伝えるものは極端に少なく足跡は不明である。一般的に善鸞の墓所は、神奈川と福島の二カ所が伝えられている。

我々は春が香る4月8日に園部公一氏元西光寺跡(常磐短期大学名誉教授)に案内頂き、県内にある善鸞の墓所と伝えられる場所を訪ねた。ここは「田上の七不思議」の一つ、「八つ房の梅」と同じ地区にあった。

この場所は椿地区と呼ばれるとおり、お堂の周りには椿の古木が何本もあった。そのお堂の傍らに善鸞大徳霊位善鸞大徳霊位の碑があり、裏手には鎌倉期頃の墓石が無数あった。我々が園部氏より説明を聞いてみると、ここを守っておられる富田さんが偶然に通りがかり、お話を聞くことが出来た。

土地の伝えでは、ひとりの旅の僧が病に倒れ、富田家で息を引き取った。その旅の僧が善鸞で、地区の墓地へ埋葬したという。江戸時代に建てたと思われる「善鸞大徳霊位」の石碑が朽ちたため、富田さんを中心に近年、新しく立て直したとのこと。

この阿弥陀堂は、お堂の東側の崖下にあった真言宗のナンゾウ院という寺が廃寺となり、その宝物を安置するために地区の人びとによって明治に建てられた。お堂の近くには「光明真言尊」と刻まれた古い石碑などがあり、その面影を偲ばせる。何故、阿弥陀堂と名付けたかは不明とのことだが、土地では「おあみださま」と呼んでいるようだ。

その後、突然にもかかわらず富田さんのご自宅へお邪魔すると、お連れ合い様が古い仏像を二体持ってこられた。拝見するとお釈迦様の誕生仏と阿弥陀如来と思われる立像であった。誕生仏は数十年前まで花祭り(お釈迦様の誕生会/4月8日)の時に



阿弥陀堂



善鸞が息を引き取った場所と伝わる富田家



阿弥陀如来像



誕生仏



風化した元の墓碑

地区の入り口へ花御堂をお飾りし安置していたようだ。ちょうど我われが訪れたのがお釈迦様の誕生会の当日であったため、富田さんも大変喜んでくれた。また、阿弥陀如来立像は、その由来が不明とのことであった。

善鸞の墓所がこの地にあるということは信じ難い話である。しかし、その是非はともかく、この土地では、そう伝わってきたことは事実である。これら消されつつある親鸞聖人の伝承・伝説から何を学ぶべきか考えさせられた。